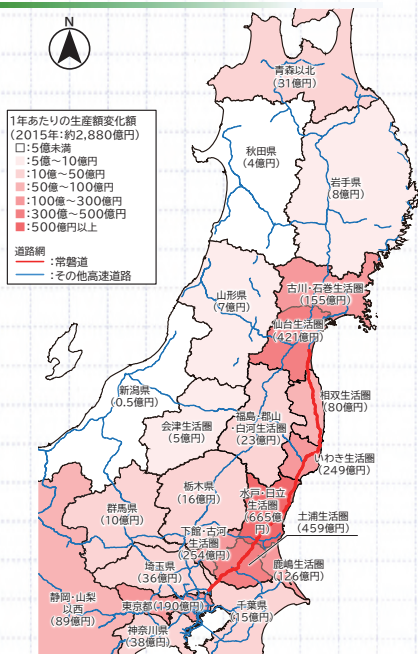


E6 常磐自動車道の整備効果

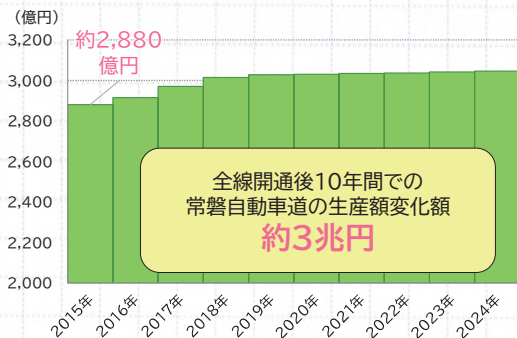
開通による経済波及効果

- ・全線開通後10年間で常磐自動車道の経済波及効果（生産額変化額）は**約3兆円**。
- ・常磐自動車道の整備により、茨城県や宮城県等において、各産業の経済活性化に寄与。

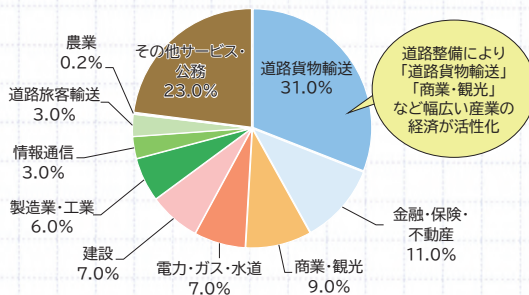
周辺地域への経済波及効果(2015年)*1、*2



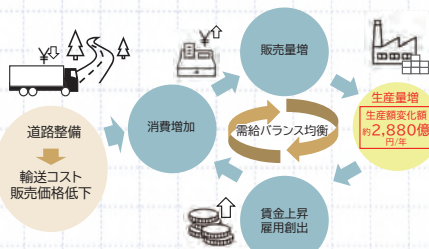
常磐自動車道の生産額変化額の推移*3



沿線5県の経済波及効果の産業別内訳



高速道路による地域経済への効果



- *1 本資料における経済波及効果とは、企業活動における「生産額変化額」を指し、常磐自動車道の整備有無による実質生産額の変化額をSCGE(空間的応用一般均衡)モデルによって推計した結果を掲載している。
- *2 SCGEモデルとは道路整備によって所要時間が短縮され、輸送・移動費用の低下が生じることで、企業や消費者に対して波及し、各地域の産業にどの程度影響を与えるかを推計可能とした手法であり、山梨大学・武蔵橋一教授の指導を受け事業者により算出。
- *3 対象地域はETC2.0プロブリーダーによる常磐自動車道利用者の利用圏域に基づき、「青森以北」「岩手県」「秋田県」「山形県」「古川・石巻生活圏」「仙台生活圏」「相双生活圏」「いわき生活圏」「福島・郡山・白河生活圏」「会津生活圏」「水戸・日立生活圏」「土浦生活圏」「鹿嶋生活圏」「下館・古河生活圏」「板木県」「群馬県」「埼玉県」「千葉県」「東京都」「神奈川県」「新潟県」「静岡・山梨以西」の22地域に分割し、エリアごとに経済波及効果を算定。
- 民間企業資本ストック(2015年～2019年)及び固定資本ストック(2020年～2024年)の2015年比を乗じることで、10年間の生産額を算出。



全線開通したことで、燃費向上につながり、その結果、輸送コスト低下につながりました。

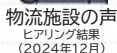
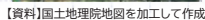
更に安全・安心・快適・便利に (4車線化・追加IC)

- ## 4車線化・追加IC・スマートICの整備状況



- 追加ICの効果(流山ICの例)

- ### ●流山IC周辺の土地利用の変化



- 首都圏への近接性と東北からの輸送拠点の需要があり得ると判断し、流山IC周辺に物流施設を立地しました。
- 常磐道を利用することで、ターミナルとしての付加価値提供が可能となり、茨城など北部から首都圏配送量が向上しました。